

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104555
法人名	有限会社ユニット・ワン
事業所名	グループホームユニットまつやま
所在地	松山市井門町790-1
自己評価作成日	平成22年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 10 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地を利用して季節の行事を取り入れるようにしている。常に音楽(ピアノ、ハーモニカ等)に触れる環境、季節の花々を感じることが出来る環境作りにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を基に、地域とのつながりを大切にしたい事業所独自の理念を全職員で作成し、管理者や職員は利用者の心に寄り添うケアを日々実践している。事業所は田園地帯に立地しており、季節の移り変わりが感じられる。屋内は広く、利用者が好きな所でゆったりと寛げるよう配慮されている。屋外も広く野菜や花を植えて楽しむことができる。管理者は職員と一緒に介護に携わり、職員とコミュニケーションが良くとれている。職員からも「意見が言いやすく仕事もやりがいがある職場です」と笑顔で話があり、ケアの充実に向けて取り組まれていることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ユニットまつやま

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)

氏名 町田 千香子

評価完了日 平成22年 9月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 新しくユニットまつやま独自の理念を作り、家族・来訪者の方にも分かるよう玄関掲示、スタッフルームに掲示することで理念の実施に努めている。</p> <p>(外部評価) 法人全体としての運営理念を基に、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支える理念を、事業所独自で作成し、玄関やスタッフルームに掲示している。月1回のカンファレンスで共通認識を持ち実践に活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 回覧板等で地域の催し物を知り参加させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域の催し物の情報を回覧板や、運営推進会議で地域住民の代表の方に聞くなどして得て参加している。ホーム主催のイベントの際には、家族会、地域の人達に参加を呼びかけ地域との交流を深める努力をしている。日常的な交流には至っていないが、地域との関りを模索しながら取り組んでいる。</p>	地域の中で生活していくためには、地域の一員としての役割を担って行くことが重要である。地域で行われる行事に、積極的に参加して地域住民との関わりを一層深めていく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学時等に相談に乗ることもある。近隣の入居サービス利用希望が多くなってきた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回行い、利用者の家族や市の職員、地域代表の方に参加してもらっている。議事録も玄関に張り出しいつでもだれでも閲覧できるようにしている。	
			(外部評価) 会議は定期的開催してホームの実態報告、イベント開催のお知らせなどしている。委員からの貴重な意見を得る努力をしているが、会議の形式にとらわれている傾向があり、管理者が会議の開催に苦慮している様子が伺える。	メンバーを固定せずその日の検討テーマに必要な人材に参加を依頼したり、行事とリンクさせる等して参加しやすい環境を整え、より一層活発な意見交換ができる関係づくりを工夫することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業連絡会には出席している。また推進委員会にも参加してもらっている。 市や社協、包括センターなどの研修に参加し担当者とお話をしたりしている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者の生活福祉の支援上の課題等について相談する等、意見交換できている。また介護認定更新の機会など、市担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズの具体的内容を伝え連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠に関しては出来ていない。自動ドアだがスイッチを別にしており職員が操作しないと開かない。希望時には希望にそうように対応し入居者さんを外に出している。 14時からはスタッフに声掛け自動ドアが開けられるようにしている。	
			(外部評価) 管理者や職員は、安全面を考慮しながら身体拘束について考え、自分達の業務内容を振り返り拘束のないケアに取り組んでいる。時間帯を決め、施錠しているが施錠しないケアの工夫を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉、身体的虐待がないか職員間で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 保佐人のついでいる人がおり、連携をとっている。成年後見制度についてはパンフレットなどで知識を深めるよう努力している。日常生活自立支援事業に関してはまだ理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族等からの質問に対して説明し理解して頂けるよう努力している。また改訂等あった場合は書面で送っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、要望、苦情などは受入れ、職員間でミーティングし方法等を考慮し利用者、家族へ説明している。 意見箱を設置しておりミーティングなどで話し合い経営者への報告を行ってその結果をホーム内に掲示している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に出席し、意見や本人の思いを表せる場を設けている。家族会や家族の面会時に積極的に声かけをし、意見を聞く努力をしている。利用一人ひとりのささやかな希望にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 最低月1回はミーティングを行い意見交換をしている。代表者とは話し合い等の機会は少ない。</p> <p>(外部評価) 管理者がいつもケアの場におり、職員が話しやすい雰囲気作りに努め、日常的に意見や提案を聞いている。月1回開催しているミーティングで職員が活発な意見を出し合い、より良い運営ができるよう全員で取り組んでいる。ミーティングの内容は文書で法人代表に伝えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員からの個人的な相談等、希望があれば聞く体制を整えている。またそれぞれのポジションの立場からのミーティングを行い報告を受ける体制を整えている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各研修への参加をし知識を高める努力をしている。実践者研修など研修を希望していない人でも順番に受講してもらうようにしている。パートの方も含め全員研修を受ける機会を作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修や連絡会などで交流を深め情報交換などしている。地区のグループホーム会に参加し交流を図っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 話をよく傾聴し不安の解消や困っている事を聞くようにしている。ホーム内で情報を共有しすぐ対応できるように努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から関わり相談に乗っている。時には家族の悩みまで聞くこともある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、さまざまなサービス、利用方法を提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションを取りながら昔の事や知っている事を話しあい、教えてもらいながら喜怒哀楽を共にしようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時に話し合いをしたり電話などで話をする時間を作ったりし、一緒に支える関係を築いている。定期的に担当者が家族へ手紙をだしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との面会ができるようにしている。 馴染みの場所への支援についてはいろいろ問題があり現状ではできていない。 時々車でドライブへ行ったり、近所の散歩などの支援は行っている。 (外部評価) 昔から利用している理美容室や病院受診を職員が支援している。また、家族に面会を多くしてもらおうなどお願いしたりその人らしい生活習慣を維持できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活の中はもちろんの事レクリエーション、行事などを通じて関わりを持つように努力している。 その人のスタイルを重視している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院入院時は対応しているが他はしていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 随時話し合う場をもっている。 本人の希望に沿うように努力している。 (外部評価) 職員は、利用者への声かけに努め、日々の生活の中で一人ひとりの言動や行動、表情などをよく把握している。気付いた事は「経過記録」に記載し、ミーティングなどで話し合い全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報ももらっている。 聞いた話などをファイルに入れて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間の事を経過記録に書き、把握に努めている。 気づいた点の情報交換し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 月1回は必ずカンファレンスを行いケアプランに反映さ せている。	
			(外部評価) 利用者にはそれぞれ担当者がおり、管理者、職員が意 見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画 を作成している。完成した計画は、家族に確認しても らっている。毎月のケアカンファレンス、定期的な見 直しで状況確認している。状態の変化が見られる場合 も随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 常にその人の言葉、気づきを記入するように努めてい る。現実ではなかなか記入できていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) サービス関わる希望等あればどんな対応ができるかを スタッフ間で話し合い、代表者の意見を取り入れなが ら対応していくよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができ よう支援している	(自己評価) 町内会長、市役所からの情報を活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 継続した医療が受けられるよう家族に協力を要請し、 支援している。</p> <p>(外部評価) 入居後も利用者や家族が希望するかかりつけ医、病院 に受診している。また、継続した医療が受けられるよ う、かかりつけ医の訪問診察が定期的に行われ健康管 理に努めている。必要に応じて専門医と連携をとるこ ともでき、適切な医療を受けられる体制ができいて いる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 気づきなどあれば経過記録への記入や看護師へ相談、 報告をし支援している。 看護師も医療機関への連絡を取って適切な支援ができ ようしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時のサマリー交換、見舞いや電話などで情報交 換を行い連絡しあっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族に見取り指針を説明し医師と家族、家族とスタッ フ、医師とスタッフで状況に応じて話し合いをしてい る。</p> <p>(外部評価) 状態変化時には家族と話し合いの機会を持ち意向を確 認し対応している。事業所としても方針を模索してい る段階で、管理者、職員も利用者の状態からこれから は重度化への対応を意識している段階でもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフにはできるかぎり救命救急の講習を受けてもらっている。 緊急時の連絡体制はあるが定期的に初期対応などの訓練はしていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時には市から情報が届くシステムになっている。年2回は防火訓練を行っているが地域との協力体制はまだあまり築けていない。 今後地域の防災訓練等、積極的に参加し協力体制を築いていこうと思っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回、防災避難訓練を実施している。その訓練から緊急時は職員だけでは対応できないことを実感しており、地域の人との協力が得られるよう働きかけに努めている。災害時に備え必要な備蓄品が整備されている。スプリンクラー設置工事が現在進んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人記録の保護、個人情報の公開の有無の確認、一人一人にあった言葉かけ・対応に努めている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。日常生活の中での排泄や入浴時等の場面では利用者の誇りやプライバシーを損わないようさりげない声かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 理解力に応じ説明したり支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強いはせず個々にあったペースで過ごしてもらっている。 なるべく本人の意思、希望にそった支援をするように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望や好みを聞いて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) マイ箸やマイ茶碗、湯のみがあり、使用されている。月に何度かはバイキング方式や希望の食事を作るようにしている。 食器の片付けなどできるひとはやってもらっている。食事介助が必要な人がいるためスタッフ、利用者が一緒には食事をとれていない。 (外部評価) 食器は利用者個人のものが使用されている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り援助がなされている。嚥下困難な利用者にはお粥、キザミ食、トロミ食にする等状態に合わせて工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人記録に食事量や水分摂取の状態を記入しており、そのつど状況に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後はできていない。夕食に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に声掛けをしトイレ誘導、失禁時はパット交換している。必要な時はポータブルトイレで排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。プライバシーに配慮しながら声かけを行いトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠を妨げないようオムツ、パット等使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎月個別に便の確認を行い、でていない時などは薬を使ったり、運動への働きかけをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴になっているが本人の体調や希望によって回数を増やしたり時間もずらしたりしている。ただ夕方や夜間の入浴はしていない。	
			(外部評価) 週2回以上、入浴できるような体制を築いている。入浴チェック表で確認し、入浴を拒む方には声かけを工夫したり、利用者のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。安全に入浴ができるよう職員2人体制で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室温や布団の調整を行い安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行っており、利用者が服薬する時にスタッフが支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 体操指導、花の水やり、洗濯物たたみ等できる人は役割を持ってして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出する事は職員の人数状況で無理だが家族への協力、買い物時一緒に外出できるよう心がけている。 中庭には自由に出入りできるようにしている。	
			(外部評価) 重度化に伴い、外出する利用者は限られてきているが、地域の公民館の行事に参加したり、家族の協力でお花見に出かけたりしている。また、ホーム周辺の景色を見ながら散歩したり、中庭で外気を楽しんでもらうなど利用者の状態に応じ、安全に配慮した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方は買い物時の使用や、お金を所持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 各部屋に電話があり好きな時間に使えるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間を広くとっている。 季節の花を飾ったり、カレンダーなど作っている。	
			(外部評価) リビングには畳コーナーがあり、利用者が好きな場所で寛ぐことができる。利用者と職員が座っても十分食事ができる大きなテーブルに季節の花が生けてあり、壁には利用者と職員の共同作品や写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間にソファをおいたり玄関にイスを置いたり、畳の間もあり自由に過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物は居室に置いている。 居室内の物は使い勝手のよいように位置をかえることもできる。	
			(外部評価) 居室入口にカレンダーと分かりやすい名札をかけている。備え付けのベッド、ロッカー、ダンス、エアコン、電話、洗面台がある他、使い慣れた家具、愛用していた物品が持ち込まれている。壁には家族と一緒に過ごした懐かしい写真も飾られ居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すり設置で歩行器や車椅子でも動き安いようにしている。 トイレや部屋の前に名札をつけわかり易いようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104555
法人名	有限会社ユニット・ワン
事業所名	グループホームユニットまつやま
所在地	松山市井門町790-1
自己評価作成日	平成22年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 10 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地を利用して季節の行事を取り入れるようにしている。常に音楽(ピアノ、ハーモニカ等)に触れる環境、季節の花々を感じることが出来る環境作りにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を基に、地域とのつながりを大切に事業所独自の理念を全職員で作成し、管理者や職員は利用者の心に寄り添うケアを日々実践している。事業所は田園地帯に立地しており、季節の移り変わりを感じられる。屋内は広く、利用者が好きな所でゆったりと寛げるよう配慮されている。屋外も広く野菜や花を植えて楽しむことができる。管理者は職員と一緒に介護に携わり、職員とコミュニケーションが良くとれている。職員からも「意見が言いやすく仕事もやりがいがある職場です」と笑顔で話があり、ケアの充実に向けて取り組まれていることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

評価完了日

年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念が実践できるように努力している。 家族や来訪者の方にもわかるように玄関に理念を掲示し、実践している。	
			(外部評価) 法人全体としての運営理念を基に、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支える理念を、事業所独自で作成し、玄関やスタッフルームに提示している。月1回のカンファレンスで共通認識を持ち実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 回覧板や地域推進委員会により町内会長さんや民生委員さんとの交流をもっている。	
			(外部評価) 地域の催し物の情報を回覧板や、運営推進会議で地域住民の代表の方に聞くなどして得て参加している。ホーム主催のイベントの際には、家族会、地域の人達に参加を呼びかけ地域との交流を深める努力をしている。日常的な交流には至っていないが、地域との関りを模索しながら取り組んでいる。	地域の中で生活していくためには、地域の一員としての役割を担って行くことが重要である。地域で行われる行事に、積極的に参加して地域住民との関わりを一層深めていく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域推進会議時、情報の提供や質問に答えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回行い、利用者の家族や市の職員、地域代表の方に参加してもらっている。議事録も玄関に張り出しいつでもだれでも閲覧できるようにしている。	
			(外部評価) 会議は定期的開催してホームの実態報告、イベント開催のお知らせなどしている。委員からの貴重な意見を得る努力をしているが、会議の形式にとらわれている傾向があり、管理者が会議の開催に苦慮している様子が伺える。	メンバーを固定せずその日の検討テーマに必要な人材に参加を依頼したり、行事とリンクさせる等して参加しやすい環境を整え、より一層活発な意見交換ができる関係づくりを工夫することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業連絡会には出席している。また推進委員会にも参加してもらっている。 市や社協、包括センターなどの研修に参加し担当者と話をしたりしている。 しかし、密にはとれていない。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者の生活福祉の支援上の課題等について相談する等、意見交換できている。また介護認定更新の機会など、市担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズの具体的内容を伝え連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は時間を決めて（14～16時）開放時間を作った。	
			(外部評価) 管理者や職員は、安全面を考慮しながら身体拘束について考え、自分達の業務内容を振り返り拘束のないケアに取り組んでいる。時間帯を決め、施錠しているが施錠しないケアの工夫を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉、身体的虐待がないか職員間で注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についてはパンフレットなどで知識を深めようと努力している。日常生活自立支援事業に関してはまだ理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族等からの質問に対して説明し理解して頂けるよう努力している。また改訂等あった場合は書面で送っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、要望、苦情などは受入れ、職員間でミーティングし方法等を考慮し利用者、家族へ説明している。 意見箱を設置しておりミーティングなどで話し合い経営者への報告を行ってその結果をホーム内に掲示している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に出席し、意見や本人の思いを表せる場を設けている。家族会や家族の面会時に積極的に声かけをし、意見を聞く努力をしている。利用一人ひとりのささやかな希望にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 最低月1回はミーティングを行い意見交換をしている。代表者とは話し合い等の機会は少ない。</p> <p>(外部評価) 管理者がいつもケアの場におり、職員が話しやすい雰囲気作りに努め、日常的に意見や提案を聞いている。月1回開催しているミーティングで職員が活発な意見を出し合い、より良い運営ができるよう全員で取り組んでいる。ミーティングの内容は文書で法人代表に伝えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員からの個人的な相談等、希望があれば聴く体制を整えている。またそれぞれのポジションの立場からのミーティングを行い報告を受ける体制を整えている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各研修への参加をし知識を高める努力をしている。実践者研修など研修を希望していない人でも順番に受講してもらうようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修や連絡会などで交流を深め情報交換などしている。地区のグループホーム会に参加し交流を図っている。相互研修を実施している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 話をよく傾聴し不安の解消や困っている事を聞くようにしている。ホーム内で情報を共有しすぐ対応できるように努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から関わり相談に乗っている。時には家族の悩みまで聞くこともある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、さまざまなサービス、利用方法を提供している。 サービス担当者会議に出席している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションを取りながら昔の事や知っている事を話しあい、教えてもらいながら喜怒哀楽を共にしようと努めている。 しかしながら介護中心となっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時に話し合いをしたり電話などで話をする時間を作ったりし、一緒に支える関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族に依存している場合が多い。 ドライブ等で馴染みの場所へ行ったりはしている。 (外部評価) 昔から利用している理美容室や病院受診を職員が支援している。また、家族に面会を多くしてもらおうなど願ったりその人らしい生活習慣を維持できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活の中はもちろんの事レクリエーション、行事などを通じて関わりを持つように努力している。その人のスタイルを重視している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) こちらからのフォローはないが、相談があった場合は応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1ヶ月に1回はカンファレンスをし、本人の希望に沿うように努力している。 (外部評価) 職員は、利用者への声かけに努め、日々の生活の中で一人ひとりの言動や行動、表情などをよく把握している。気付いた事は「経過記録」に記載し、ミーティングなどで話し合い全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報ももらっている。聞いた話などをファイルに入れて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間の事を経過記録に書き、把握に努めている。気づいた点の情報交換し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 月1回は必ずカンファレンスを行いケアプランに反映さ せている。	
			(外部評価) 利用者にはそれぞれ担当者がおり、管理者、職員が意 見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画 を作成している。完成した計画は、家族に確認しても らっている。毎月のケアカンファレンス、定期的な見 直しで状況確認している。状態の変化が見られる場合 も随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 気づきをもっと記入するとよいと思っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) デイサービスにおいては取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 町内会長、市役所からの情報を活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 継続した医療が受けられるよう家族に協力を要請し、 支援している。</p> <p>(外部評価) 入居後も利用者や家族が希望するかかりつけ医、病院 に受診している。また、継続した医療が受けられるよ う、かかりつけ医の訪問診察が定期的に行われ健康管 理に努めている。必要に応じて専門医と連携をとるこ ともでき、適切な医療を受けられる体制ができいて いる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 気づきなどあれば経過記録への記入や看護師へ相談、 報告をし支援している。 看護師も医療機関への連絡を取って適切な支援ができ ようしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入退院時のサマリー交換、見舞いや電話などで情報交 換を行い連絡しあっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 往診して頂ける主治医への変更し、24h体制をとった入 居者もある。</p> <p>(外部評価) 状態変化時には家族と話し合いの機会を持ち意向を確 認し対応している。事業所としても方針を模索してい る段階で、管理者、職員も利用者の状態からこれから は重度化への対応を意識している段階でもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフにはできるかぎり救命救急の講習を受けてもらっている。 緊急時の連絡体制はあるが定期的に初期対応などの訓練はしていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時には市から情報が届くシステムになっている。年2回は防火訓練を行っているが地域との協力体制はまだあまり築けていない。 今後地域の防災訓練等、積極的に参加し協力体制を築いていこうと思っている。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回、防災避難訓練を実施している。その訓練から緊急時は職員だけでは対応できないことを実感しており、地域の人との協力が得られるよう働きかけに努めている。災害時に備え必要な備蓄品が整備されている。スプリンクラー設置工事が現在進んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人記録の保護、個人情報の公開の有無の確認、一人一人にあった言葉かけ・対応に努めている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。日常生活の中での排泄や入浴時等の場面では利用者の誇りやプライバシーを損わないようさりげない声かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 理解力に応じ説明したり支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強いせず個々にあったペースで過ごしてもらっている。 なるべく本人の意思、希望にそった支援をするように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔第一に考え、その上でその人らしさを出す工夫をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は楽しみにしておられる。会社の方針があり、できない部分があるが片付けは手伝ってもらっている。共に食事をとることは介助者が増えたためできていない。 (外部評価) 食器は利用者個人のものが使用されている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り援助がなされている。嚥下困難な利用者にはお粥、キザミ食、トロミ食にする等状態に合わせて工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人記録に食事量や水分摂取の状態を記入しており、そのつど状況に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) できる人には声掛け援助とし、できない人に対しては口腔ケアを実施している。 食後のお茶は必ず飲んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中、夜間も個々にあったトイレ誘導を実施している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。プライバシーに配慮しながら声かけを行いトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠を妨げないようオムツ、パット等使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給時、牛乳をとり入れる等し、できるだけ自然に排泄出来る様気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望をする方がおられない。 職員の声掛けに拒否する人もいない為日時はこちらで決めている。入浴の仕方は個々によりあわせている。	
			(外部評価) 週2回以上、入浴できるような体制を築いている。入浴チェック表で確認し、入浴を拒む方には声かけを工夫したり、利用者のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。安全に入浴ができるよう職員2人体制で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人に合わせた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行っており、利用者が服薬する時にスタッフが支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 体操指導、花の水やり、洗濯物たたみ等できる人は役割を持ってして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出する事は職員の人数状況で無理だが家族への協力、買い物時一緒に外出できるよう心がけている。 回数的には少ない。 中庭には自由に出入りできるようにしている。	
			(外部評価) 重度化に伴い、外出する利用者は限られてきているが、地域の公民館の行事に参加したり、家族の協力でお花見に出かけたりしている。また、ホーム周辺の景色を見ながら散歩したり、中庭で外気を楽しんでもらうなど利用者の状態に応じ、安全に配慮した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進んでいる人が多い為レベル的に無理がある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) できる人には支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間を広くとっている。 季節の花を飾ったり、カレンダーなど作っている。	
			(外部評価) リビングには畳コーナーがあり、利用者が好きな場所で寛ぐことができる。利用者と職員が座っても十分食事ができる大きなテーブルに季節の花が生けてあり、壁には利用者と職員の共同作品や写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間にソファをおいたり玄関にイスを置いたり、畳の間もあり自由に過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物は居室に置いている。 居室内の物は使い勝手のよいように位置をかえることもできる。 自分の部屋との自覚はもっている。	
			(外部評価) 居室入口にカレンダーと分かりやすい名札をかけている。備え付けのベッド、ロッカー、ダンス、エアコン、電話、洗面台がある他、使い慣れた家具、愛用していた物品が持ち込まれている。壁には家族と一緒に過ごした懐かしい写真も飾られ居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すり設置で歩行器や車椅子でも動き安ようにしている。 トイレや部屋の前に名札をつけわかり易いようにしている。	